

平成28年度保健師中央会議

統括保健師災害対応訓練 静岡県健康増進課 280722

イメトレof静岡バージョン



- イメトレは、災害時に統括保健師としてどのような対応をしたら良いかを具体的に考えるイメージトレーニングのことです。
- イメージする課題が、3つ付与されます。
統括保健師として、災害時健康支援の現場で必要とされる授援側のマネジメントを疑似体験できます。

イメトレをスタート

イメトレをスタート

○訓練全体の説明

(目的、最終目標、実施方法)

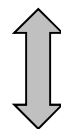
- ・イメージの概要やねらいの説明
- ・大まかなルールやスケジュールを説明
- ・1グループ9人程度で構成
- ・全員、市の統括的な立場の保健師役で参加
- ・統括保健師は、本部で調整機能を役割とする
(本部は調整機能の拠点であり、救護所や避難所の支援の現場ではない。)



市町支援のための各所属の役割を明確化

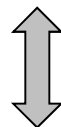
県本部健康福祉部健康支援班 健康支援チーム【健康増進課】

本庁健康支援コーディネーター



方面本部健康福祉班 【健康福祉センター】

地域健康支援コーディネーター



市町【保健センター等】

現場を統括（コーディネート）する保健師

訓練の目的 はじめに

- ・災害発生時に市町保健師は、災害対策本部や保健センター等の活動拠点において、市町保健師等の活動体制、各種の情報及び支援者（派遣保健師等）を調整する役割が重要
- ・市町保健師に必要とされるコーディネート機能の習熟を図り、災害時には市町保健師の誰もが統括的な役割を果たせるようにするための訓練

今回訓練する市町 M市の概要

人 口 20万人

保健師数 33人

避難所 48箇所

救護所 18箇所

M市の地域防災計画

目的

- ・住民の
を災害から保護し、日常生活の
 を確保するため各種の
災害対策について必要な事項を
定める。

地震対策アクションプラン

減災目標

人的被害の最小化

5つの柱

- 地域危険度に応じた対策
- 津波からの緊急避難「避難時間の確保」
- 減災に向けた供え
- まちの防災力強化
- 迅速な復旧・復興

M市の 人的被害は どのくらい

人的被害

死者 **8,200**人

重傷者 **300**人

軽症者 **1,300**人

津浪・建物被害による被害

M市の 建物被害は どのくらい

建物被害

全壊 約 **4,800**棟

半壊 約 **11,000**棟

地震・津浪・液状化・山崖崩れ
による被害

訓練に用いる被害想定

- この被害想定は危機管理局提供の資料を基に、第4次地震被害想定における県東部地域の被害を本訓練用にアレンジしてあります。
- 各自治体で訓練を実施する場合には、県地域危機管理局や市町災害対策本部提供の資料を基に可能な限り市町の被害想定を用いるとより現実的な訓練が実施できます。

被害想定

- ・平成28年7月20日午前3時30分、駿河トラフから南海トラフを震源域とする大規模地震が発生し、東部を中心に全域で震度7～6弱の揺れとなり、県下の沿岸には大きな津波が襲来するなど、県下全域に大きな被害が発生したことを想定する。
- ・M市では最大震度6強、津波高最大9.8m、海岸沿いは、大津波警報のため通行止めとなっている。
- ・一般電話は通話不能な状態だが、防災行政無線、衛星携帯電話、インターネットによるデータ通信は使用可能

ライフライン(東部)1日後

- 上下水道の断水率 88%
- 固定電話の不通回線率 78%
- 携帯電話の被害率 80%
- 停電率 80%

- 避難者数 避難所65,555人
避難所外 39,540人

ライフライン(東部)4日目以降

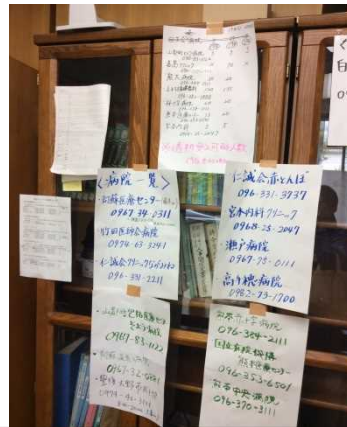
- 上下水道の断水率 47%(1週間後)
 - 固定電話の不通回線率 4%(1週間後)
 - 携帯電話の被害率 5%(4日後)
 - 停電率 4%(4日後)
-
- 避難者数 避難所102,583人
(1週間) 避難所外 96,199人

【M市の状況】

対象地域M市の

○避難所48箇所のうち津波被害のない避難所は
42箇所

○救護所18箇所のうち津波被害のない避難所は
14箇所

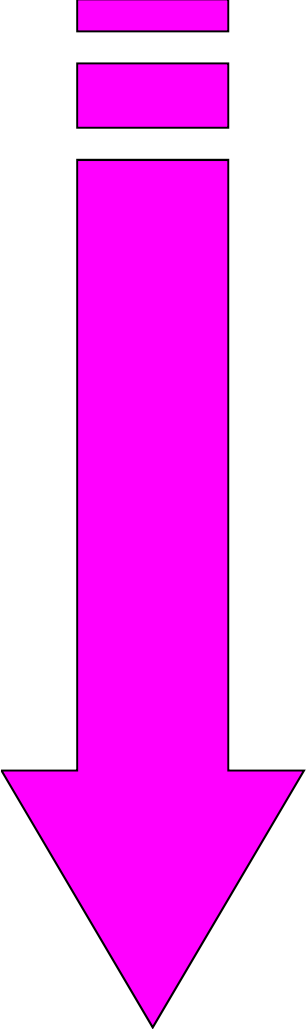


イメトレの前に・・・グループメンバーの紹介

【イメトレ1】「24時間時点」救護所活動の時点
「72時間以降」救護所活動移行の健康支援
活動が中心の時点のうち24時間時点で訓練

- 訓練上の統括する市町保健師の役割確認
 - 災害時健康支援活動に必要な役割、能力の確認
 - 災害時における保健師の役割
 - 健康支援活動のための各立場の保健師の役割とは
 - その中の「市町保健師」の統括的役割の必要性

24時間時点、情報把握 情報管理

- 
- 1 保健師稼働状況の把握
(安否と活動状況)
 - 2 通常の保健活動の実施判断
 - 3 情報収集の方法の検討
(災害対策本部からの情報
収集)

発災後 24時間時点

- ・「発災後24時間」は救護所活動にあたって
いる時期であっても、健康支援活動のため
のコーディネートの役割があることを体験し
てもらうための時点設定となっている。
- ・発災から24時間が経過した時点では、参集
可能な保健師は救護所や対策本部に配置さ
れ活動している状態
- ・健康支援活動の動きとしては、派遣保健師
の導入に向けて国や県が調整を開始する時
点

1 保健師稼働状況の把握

- 保健師の実際の居住地や家族構成などを考慮して実際の職員名で稼働状況を把握し保健師稼働一覧に表示（保健師の稼働状況は50%と想定）
- 稼働している者は活動場所、稼働していない者は安否等を表示する.
- 保健師稼働状況報告を作成して保健所へ提出する

2 通常の保健活動の実施判断

- 乳幼児健診や相談事業等の通常業務の継続、縮小、中止を判断
- 継続する事業と担当者を選定し、保健稼働状況一覧に表示する

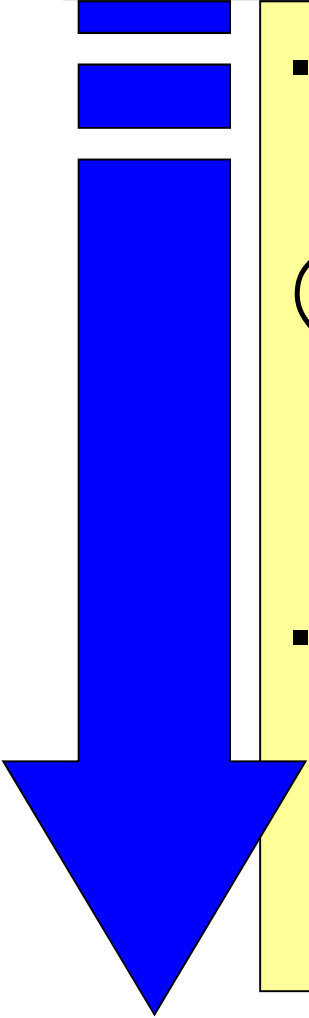
3 情報収集の方法の検討

- ・災害時には多方面、多種類、多数の情報が入り、即座の判断が必要。
どういう方法で被災情報や非難情報、外部からの支援情報を入手するか考える。例えば市町防災対策本部との連絡をどうするか
の具体的手段(だれが、どうやって)等
- ・コーディネート機能として「情報の中から優先順位と必要に対応を考え、現場に正しく伝える」ことが求められる。

72時間以降（今回訓練は実施しない） 健康支援活動のための人員配置等の調整

- 市町保健師の人員配置（役割分担）
発災から72時間が経過し、保健師が救護所活動から引き上げ、健康支援活動に移行する時期
- 多くの外部支援者を含む地域保健従事者は避難所等の地域活動において、市町保健師は現場スタッフでなく調整スタッフとして活動
- 統括的な役割を担う市町保健師は保健センター等の活動拠点においてコーディネートを行う

市町保健師の人員配置（役割分担）

- 
- ・保健師稼働状況一覧に担当地区・担当業務を振り分ける。
(母子、精神、障害者、感染症、高齢者、栄養、歯科)
 - ・想定稼働率70%とし、訓練参加者の自治体ごとに人員配置を検討する。

イメトレ2&3 情報付与訓練

- 災害時には多方面・多種類、多数の情報が入り、即座の判断が必要、情報の中から優先順位と必要な対応を考え、現場に正しく伝える」ことについて訓練を行う。
- 付与情報を基にコーディネーターの立場の保健師の対応についてグループワークを行う。

* グループワークのコツ

答を一つにまとめる必要はなく、いかに多くの視点から情報を判断できるかがグループワークのねらい

イメトレ2 付与情報①

- 発災3日目
- 秋田県から1班5名保健師派遣決定
5日目から派遣可能、公用車なし、宿泊場所確保済
4泊5日で継続して派遣、最終日と初日が重なり引継ぎ可
- 福井県から1班5名保健師派遣決定
公用車あり、宿泊場所を探しているが決定次第に派遣可能
3泊4日で継続して派遣、最終日と初日が重なり引継ぎ可
- 日本看護協会災害支援ナース1班2名派遣決定
4日目から派遣可能、1班2日(毎週土日のみ)継続

派遣職員の受け入れのための調整を開始してください。
(日程、配置場所、オリエンテーション、関係機関への連絡など)

イメトレ3 付与情報②

- 発災6日目
- 下痢・嘔吐の有症状者が増加しており、本日朝の時点で、第五中学21名、第五小学校18名、開北小学校9名
- 当該3避難所は浸水被害のない家屋がほとんどで、昼間は自宅の片付けで不在の者が多い。電気の復旧した地域から自宅に戻る人が見られている。
- 炊き出しボランティア巡回が、明日の昼食時、開北小学校にて炊き出し予定
- 本日、大岡小学校に自衛隊が仮設風呂を設置。明日から巡回バス一日3回で避難所を送迎予定。

この状況で関係機関と必要な調整を行い、各避難所の健康支援担当に指示をしてください。

訓練後の気づきを代表グループが発表

- 学び、課題、質問、訓練に対する意見など
1グループ3分程度で発表

ファシリテーターが訓練全体を通してコメント